

GS ビッグデータ・ストラテジー(外国株式)

追加型投信／海外／株式

モーニングスター アナリストレポート



<当ファンドの計量モデルにおけるビッグデータやAI(人工知能)の活用について>

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの計量モデルでは、投資対象銘柄について、数多くの多面的な評価基準に基づいて評価し、組入銘柄を決定しています。これらの評価基準の開発において、財務諸表などの伝統的なデータに加え、ニュース記事やウェブ・アクセス量などの非伝統的データも活用されます。ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントではこれらのデータ(ビッグデータを含みます。)の活用を競争力の源泉とみなしており、近年その利用割合を増やしているだけでなく、そのデータの種類や利用方法も進化しています。機械学習に代表されるAI技術は、一部の評価基準においてデータ分析プロセスで活用され、特にアナリスト・レポートやニュース記事等のテキストデータを読み込む評価基準において活用されます。最終的な評価基準の選定および組入銘柄の決定は、計量投資戦略グループのシニア・ポートフォリオ・マネジャーが監督しています。

■本資料はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます。)が作成した販売用資料です。投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■本ファンドは値動きのある有価証券等(外国証券には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■本資料の中間は、モーニングスター社が当社との契約に基づき、当社のために作成したレポートです。■本資料に掲載するモーニングスターによる評価は、過去の一定情報を分析した結果得られたものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。■投資信託は、金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。■投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うことになります。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

■設定・運用は

SBI証券

商号等 株式会社SBI証券
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

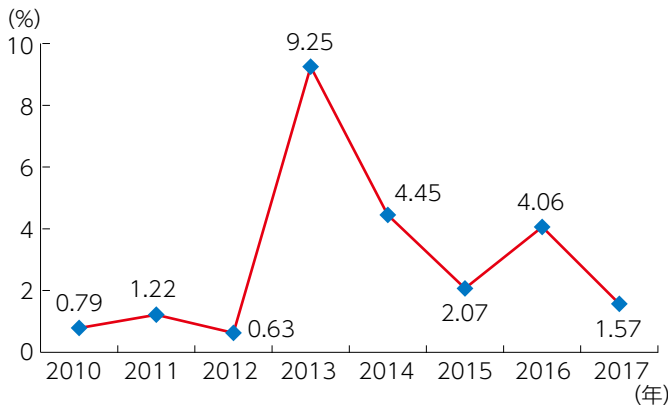
商号等 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第325号
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

従来のクオンツ運用にない独自性、ビッグデータ・AIを銘柄選択に活用

「GS ビッグデータ・ストラテジー(外国株式)」(以下、当ファンド)は日本を除く先進国の株式を実質的な投資対象として、独自開発の計量モデルを用いて銘柄選択を行う。ビッグデータ・AI(人工知能)を活用することにより、従来型のクオンツ運用にはない独自の分析を行うことを強みとし、当ファンドと同戦略の代表口座では、ベンチマークに対して安定的な超過収益を達成している(図1)。当ファンドは「モメンタム(株価の勢い)」「収益性」「バリュー(割安度)」という3つの投資テーマに基づき銘柄の魅力度を判定する。中でもパフォーマンスへの貢献が大きいのがモメンタムであり、株価材料に対する過小・過剰反応といった投資家行動に起因する収益機会を捉える上で、ビッグデータ・AIを活用している。例えば、曖昧または複雑な情報に対する投資家の行動は遅れる傾向がある中で、ビッグデータ・AIを用いることで人間では特定できない有益な情報を抽出することが可能となっている。

組入上位10銘柄を見ると、8銘柄がベンチマーク「MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)」の組入トップ10にない銘柄であり、独自性のある銘柄選択が行われている(図2)。また、銘柄は1週間に数回程度の頻度で入替を実施しており、刻々と変化するマーケットに対して機動的な対応が可能となっている。

図1：(ご参考)当ファンドと同戦略の代表口座の超過収益率



※代表口座(運用報酬控除前)のパフォーマンスに基づく(年度ベース)
出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント提供データを基にモーニングスター作成

図2：組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国	比率	ベンチマーク組入トップ10における有無
1	アマゾン・ドット・コム	米国	1.5%	有り
2	ビザ	米国	1.4%	無し
3	ボーイング	米国	1.4%	無し
4	ユナイテッドヘルス・グループ	米国	1.3%	無し
5	シェブロン	米国	1.3%	無し
6	ウォルマート・ストアーズ	米国	1.2%	無し
7	IBM	米国	1.2%	無し
8	フェイスブック	米国	1.2%	有り
9	ロシュ・ホールディング	スイス	1.1%	無し
10	キャタピラー	米国	1.1%	無し

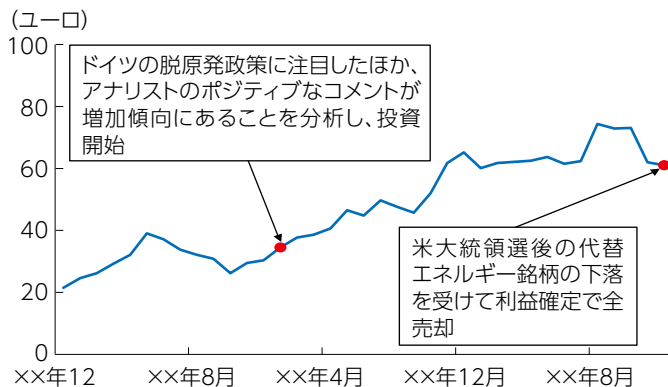
※2018年1月末時点(マザーファンドベース)
出所：当ファンドの月次報告書、MSCIコクサイ・インデックスのファクトシートに基づきモーニングスター作成

注目テーマを自然言語解析でいち早く察知、クレジットカードの履歴データ活用

当ファンドが強みとするビッグデータ・AIを用いた分析は、アナリストのレーティングや企業の財務指標などの単純な数値データを基に銘柄を選定する従来のクオンツ運用とは一線を画するものとなっている。AIは従来数値のみに限られていた分析対象を、文章・画像・音声に広げることが可能としている。例えば、当ファンドでは市場が注目するテーマを自然言語解析によっていち早く捉え、関連銘柄の評価に反映している。同運用チームが類似の運用戦略を用いるルクセンブルク籍ファンドでは、ドイツの風力発電機メーカーA社への投資において同手法を用い、収益機会を捉えた(図3)。

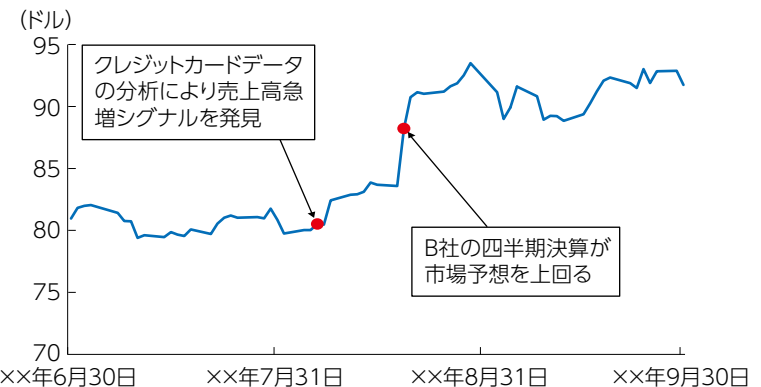
同じく類似運用戦略の実際の投資事例としては、米国の小売り大手B社がある。クレジットカードの利用履歴データを用いた分析により、決算での業績上振れを察知し、株価上昇の予測を可能とした(図4)。

図3：A社株価推移(類似運用戦略の投資事例)



※図3および図4は類似運用戦略を用いるルクセンブルク籍外国投資証券「ゴールドマン・サックス・ファンズS.I.C.A.V. -ゴールドマン・サックス・グローバルCOREエクイティ・ポートフォリオ」の事例
出所：モーニングスター作成

図4：B社株価推移(類似運用戦略の投資事例)



運用チームはレーティング上位の実績、当ファンドのコストは相対的に「安い」

当ファンドを運用するゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの株式アルファ・チームは2017年9月末現在で27名で構成され、海外で優れた運用成績を達成しているチームである。同チームが欧州(ルクセンブルク)で運用するファンドのモーニングスターレーティング(※1)を見ると、6本中3本が5ツ星、2本が4ツ星と、上位のレーティングが目立つ(図5)。なお、5ツ星の「GS Global CORE® Eq I Inc USD Snap」は日本も投資対象に含む点などが当ファンドと異なるものの、それ以外は類似の運用戦略を用いており、10年以上の実績がある。

また、チームの高い運用力に加え、当ファンドの相対パフォーマンスにプラスに寄与すると考えられるのが、コスト優位性である。信託報酬等(税込み)は1.33%と、フィーレベルカテゴリーの平均を0.44%下回り、フィーレベル(※2)は5段階で最も低コストの「安い」となっている(図6)。

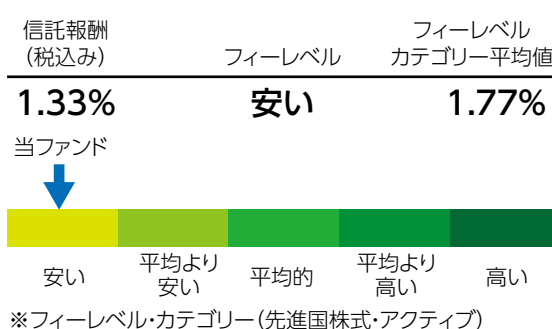
- ※1.モーニングスターレーティング=リスクを考慮したリターンがカテゴリー内でどのランクに入るかを1ツ星から5ツ星の5段階のレーティングとして付与している。
- ※2.モーニングスターフィーレベル=信託報酬率について、所属するフィーレベルカテゴリー内で%ランクを算出、20%ずつの5分位にてレーティングを付与している。

図5：運用チームが担当するルクセンブルク籍ファンド

ファンド名	カテゴリー	レーティング
Goldman Sachs Emerging Markets CORE Equity Portfolio	グローバル新興国株式	★★★★★
Goldman Sachs Europe CORE® Equity Portfolio	欧州大型ブレンド株式	★★★★★
Goldman Sachs Global CORE® Equity Portfolio	グローバル大型ブレンド株式	★★★★★
Goldman Sachs Global Small Cap CORE® Equity Portfolio	グローバル小型株式	★★★★
Goldman Sachs US CORE® Equity Portfolio	米国大型ブレンド株式	★★★★
Goldman Sachs US Small Cap CORE® Equity Portfolio	米国小型株式	★★★

※設定が最も古いシェアクラスが対象 ※2018年1月末時点
出所：モーニングスター作成

図6：モーニングスターフィーレベル



※2018年1月末時点
出所：モーニングスター作成

<ご参考>代表口座の累積リターンはベンチマークを大きく上回る

当ファンドは設定が2017年12月と、運用実績はまだ短いものの、同様の運用戦略を用いる代表口座は2002年9月から運用を行っており、長期の実績を有する。代表口座の運用開始以降の累積リターンは2018年1月末時点で410%と、ベンチマークを87%上回っている(図7)。

特に、2011年に計量投資戦略グループにおけるCIO(最高投資責任者)が代わりビッグデータやAIの活用割合が増加して以降、ベンチマークに対する超過収益率が大きくなっており、運用プロセスの継続的な改善がパフォーマンス向上につながっていると考えられる。銘柄選定の評価基準の数は10年間で大幅に増加し、現在は数百もの評価基準で銘柄を評価している。評価基準を追加する際は基準の有効性を検証するだけでなく、各基準同士の相性も考慮し、分散効果の高さも追求している。

図7：代表口座の累積リターン



期間：2002年9月末(運用開始日)～2018年1月末 ベンチマーク：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント提供データを基にモーニングスター作成

上記データにおいては、ファンドの信託報酬【年率1.3284%(税込)】等の諸費用は考慮されていません。上記は過去のデータであり、本ファンドの将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。

当資料のデータについて

図1と図7は、運用チームの運用実績についての情報提供のため、2002年9月より運用する代表口座の実績をご参考までに示したものであり、本ファンドの実績ではなく、将来の運用成果等を示唆するものではありません。代表口座の運用実績は運用報酬控除前、配当課税控除前のものです。代表口座の運用実績は、本ファンドと同様の運用プロセスで運用を行う戦略のものですが、運用報酬、投資ガイドライン、税法、準拠法等が異なるため、本ファンドが同様のパフォーマンスとなることを示唆あるいは保証するものではありません。なお、過去の一定の期間において、運用ガイドライン等の要因により本戦略が本来意図する運用に一定の制約があった点にご留意ください。

ファンドのリスクについて

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。本ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株式投資リスク（価格変動リスク・信用リスク）」、「株式の流動性リスク」、「為替変動リスク」などがあります。くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

お申込みメモ

購入単位	販売会社によって異なります。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金申込不可日	英国証券取引所もしくはニューヨーク証券取引所の休業日またはロンドンの銀行もしくはニューヨークの銀行の休業日(以下「ロンドンまたはニューヨークの休業日」といいます。)
申込締切時間	「ロンドンまたはニューヨークの休業日」を除く毎営業日の原則として午後3時まで
信託期間	原則として無期限(設定日:2017年12月19日)
繰上償還	純資産総額が60億円を下回ることとなった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	年2回(毎年6月25日と12月25日。ただし、休業日の場合は翌営業日。) ※初回決算日は2018年6月25日とします。
収益分配	年2回の決算時に原則として収益の分配を行います。 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
課税関係 (個人の場合)	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は少額投資非課税制度(NISA)の適用対象です。配当控除の適用はありません。 原則、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の譲渡益が課税の対象となります。

ファンドの費用について

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入価額に、 3.24%(税抜 3%) を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
換金時	換金手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して 年率1.3284%(税抜1.23%) ※運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
	信託事務の 諸費用	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、印刷費用など信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%相当額を上限として定率で日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われるほか、組入れ投資信託証券の信託事務の諸費用が各投資信託証券より支払われます。
随時	その他の費用・ 手数料	有価証券売買時の売買委託手数料や資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料(組入れ投資信託証券において発生したものを含みます。)はファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせください。